

さつまいもの産地育成



計画期間：令和5～6年度

対象者：株式会社やまもとファームみらい野
株式会社おひさま村

担当チーム員：◎嶋田 圭、漆山喜信、伊藤博祐、大内信博

課題の背景

- さつまいもの需要は増えているが供給は減少傾向
 - ⇒ 高齢化、労働力不足による**作付面積の減少**
 - ⇒ 主な産地での**土壌病害**の蔓延
 - ⇒ 東日本(寒冷地)での栽培が求められている
- 県内では震災前後、約30haの作付がされていた
 - ⇒ (令和4年度)亘理町、山元町で約**38ha**作付

目標

- 定性的目標

- ① 栽培技術向上により生産体制が強化される

- ② 貯蔵管理技術の徹底による生産物の品質向上

- 定量的数値目標

- さつまいもの10a当たり収量の増加(%)

- R4:100 → R5:110 → R6:120

活動事項

① 栽培技術の向上支援、栽培手引きの作成・配布

- ・生育期間中の巡回指導、栽培の振り返り
- ・栽培研修会、先進地視察の実施
- ・作業現場での聞き取り等から栽培手引きを作成

② 貯蔵管理技術の徹底支援

- ・貯蔵管理状況の把握、聞き取り
- ・生産者間の意見交換会の実施

活動内容及び成果①



・育苗、定植、生育期間中の巡回

⇒節数が少ない苗、植付け精度の低い機械移植では、定植後の活着が悪く、減収の原因となることが分かった。

（昨夏の猛暑、渇水が追い打ち）

⇒苗が徒長しないようにかん水、温度管理を行う必要があることが認識された。

⇒改良型の移植機の導入について検討を行うこととなった。

活動内容及び成果②

・栽培講習会、先進地視察の実施

⇒基本的技術、土壌病害対策、収穫後の腐敗対策について習得した。

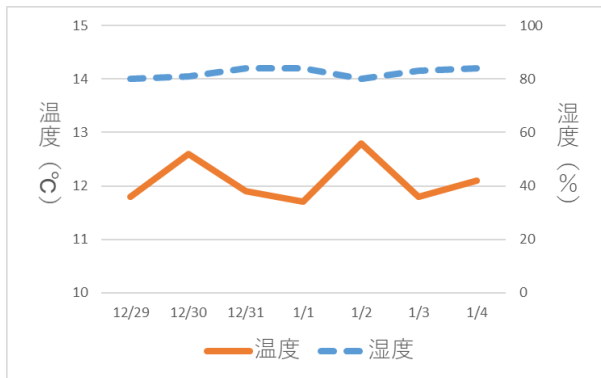
・農園研の協力で作業時間を集計

⇒過剰な人員投入が明らかとなり、人件費を考慮し、効率的な作業体系を構築するきっかけとなった。

⇒作業時間を含めた経営指標を作成し、栽培手引きに反映させ今後の普及拡大に活用する。



活動内容及び成果③



・収穫後の腐敗の原因を調査

⇒ 収穫適期を過ぎたものは腐敗しやすく、収穫後に乾燥する工程が必要であることが分かり、来作の課題として認識できた。

・キュアリング、貯蔵時の温度・湿度を測定

⇒ 貯蔵に好適な環境よりも低温、低湿になっていることが分かり、設定の見直しが行われた。

活動内容及び成果④

・生産者間の意見交換会の実施

⇒栽培、施肥、防除、貯蔵など各段階の管理について、経験に基づく知見を得ることができた。

・簡易な設備による貯蔵管理施設

⇒今後、規模拡大した場合の貯蔵庫増設の参考となった。



今年度の成果

● 定性的目標

- ①巡回、講習会その他、栽培の振り返りを行うことで、次作に向けて改善点が見つかり、栽培技術が向上した。
- ②貯蔵状況の現状を正確に把握することで、腐敗の原因を検討し対策を実施することができた。

● 定量的数値目標

さつまいもの10a当たり収量の増加(%)

R4:100 → R5:110 → R6:120

(R5実績: **111.6**)

今後(来年度)の課題

株式会社やまもとファームみらい野

⇒適切な育苗管理による健全な苗の育成

⇒定植の技術改善による収量の増加



株式会社おひさま村

⇒事業活用による規模拡大に伴う経営の安定化

⇒腐敗対策の実施による収穫後のロスの減少

